

自己評価報告書

平成23年 4月 1日現在

機関番号：12601

研究種目：基盤研究(B)

研究期間：2008～2011

課題番号：20401020

研究課題名(和文) 湘南土話の総合的研究

研究課題名(英文) A general study on the unclassified languages spoken in the southern Hunan province of China

研究代表者

吉川 雅之(YOSHIKAWA MASAYUKI)

東京大学・大学院総合文化研究科・准教授

研究者番号：30313159

研究分野：中国語学

科研費の分科・細目：言語学

キーワード：土話・平話, 漢語, 勉語, 伝統的家屋, 家系図, 中国(湖南・広東・広西)

1. 研究計画の概要

本研究は中国湖南省南部で話されている系統未詳の「湘南土話」に対し、音韻・語彙・文法についての全面的な野外調査を行い、言語体系全体を記述することを初期の目標とする。そして通時的視点からその成立過程を考察し、漢語と非漢語の中における位置付けを提唱することを中期の目標とし、将来的には中国華南における漢語史を再検討する材料としたいと考えている。土話の成立過程の解明に関しては、言語調査のみによる一面的考察では不十分であると考えており、建築や歴史に関する調査の助けを借りることで、話者集団の形成を多面的に考察することを目指す。

湘南土話は湖南省最南部の永州地区と郴州地区に分布する方言群の総称であり、周囲の漢語系諸語(粵語, 客家語, 湘語など)に比して際立った特徴を多く有する。その一方で、語彙の特徴から基層には非漢族である瑶族の勉語(ミエン語)が存在する可能性があり、華南においてどのように漢語が浸透していったかを問う上での重要な言語資料を蔵する。

2. 研究の進捗状況

本研究では湘南土話の中で保守的な形を留める江永県と江華瑶族自治州の方言群を主な調査対象とする。これまで合計6回行った野外調査の進捗状況および調査を通して得られた主な成果は、次のとおりである。なお、言語班には東京大学の大学院生3名が参加している。

(1) 言語班(吉川他):

① 従来粗雑な記述しかなされてこなかった上記両県全域の言語種と分布状況を明らか

にした。

② 複数地点を選定して、土話の音韻・語彙・文法の調査を進めている。

③ 建築班が作成した画像入り統一フォーマットの調査票を使用して、伝統的家屋の構成要素についての語彙調査を、異なる言語種の6地点ですで行った。

(2) 建築班(連携研究者 溝口):

① 土話や勉語の話者の伝統的家屋20軒以上に対して調査を行い、図面を作成した。目下、家屋とその構成要素について類型化を行っている。

(3) 歴史班(連携研究者 ダニエルス):

① 土話や勉語の話者の移入経路について、聞き取り調査と家系図調査を行った。

この中で、③には本研究の独創性が現れている。従来、建築学の論著では家屋の構成要素の名称が中国語(共通語)でしか記されてこなかった。これに対して本研究では当該世帯が使用している土話での呼称を収集している。

その他、平成23年3月の第6回野外調査では、藍山県の土話と伝統的家屋の調査も行った。

3. 現在までの達成度

②おおむね順調に進展している。

(理由)

(1) 江永県と江華瑶族自治州のほぼ全域について、言語種と分布状況の調査を行い、先行文献の粗雑な記述に比べて遙かに詳細な行政村単位の実態が把握できたと同時に、遙かに複雑な状況の存在が判明した。

(2) 土話が系統関係上一種類ではなく、系統を異にする複数の言語に分類すべきことが判明した。

(3) 当初は調査対象地に含めていなかった藍山県（江華県に隣接）でも調査を行うことができ、先行文献に記載のない言語種を多数発見できた。

(4) 平成 22 年度の調査では、江永県西南部の言語状況が当初の予想よりも複雑であることが分かったため、当該地区に対する歴史調査を平成 23 年度に延期したが、これについては目下調査体制を整えつつある。

4. 今後の研究の推進方策

平成 23 年度は本科研究の最終年度である。言語班はこれまでに行ってきた複数地点の土話に対する音韻・語彙・文法の調査を完遂させ、得られた知見を口頭発表する予定である。建築班はこれまでに調査した家屋の図面に基づき、類型化を行い、当該世帯の言語との対応関係について分析を行う。歴史班は、言語状況が予想していたよりも複雑であることが平成 22 年度に分かった江永県西南部の土話話者に対して、家系図の調査を集中して行う予定であり、江永県西南部の土話話者群が単一の源より来るものか否かの検証を行う。

以上の作業の完了後に、言語・建築・歴史の三方面から、土話とその話者集団の形成について統括的な見解を提示することを目指す。

5. 代表的な研究成果

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 1 件）

① 吉川雅之、兩份早於馬禮遜的粵語資料，粵語跨學科研究：第十三屆國際粵方言研討會論文集，pp. 287-304，2009 年，査読有。

〔学会発表〕（計 14 件）

① 溝口正人、中国と日本の家族と生活様式—漢族および少数民族の住まいに関するフィールドノートから—，名古屋市女性会館講座，2010年11月24日，名古屋市女性会館。

② Yoshikawa, Masayuki (吉川雅之)，*Differences between the Cantonese spoken in Canton City and a Canton suburb in the 1830s*, The 18th Annual Conference of the International Association of Chinese Linguistics & The 22nd North American Conference on Chinese Linguistics, 2010 年 5 月 20 日, Harvard University.

③ ダニエルス・クリスチャン、一八世紀後半～一九世紀前半における地域住民の天然資源保護・管理—元江流域・メコン河流域を事例として、2009 年史学会 107 回大会：公開シンポジウム「環境と歴史学」、2009 年 11 月 7 日、東京大学（本郷キャンパス）。

④ 田口善久、湖南省江華県におけるミエン語調査 2009.3, 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所共同研究プロジェクト「タイ文化圏における山地民の歴史的研究」2009 年度第一回研究会「山地民の言語—湖南省南部の言語群」, 2009 年 4 月 12 日, 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所. (招待講演)

⑤ 吉川雅之、湖南省江華県の言語調査—土話の分布と特徴, 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所共同研究プロジェクト「タイ文化圏における山地民の歴史的研究」2009 年度第一回研究会「山地民の言語—湖南省南部の言語群」, 2009 年 4 月 12 日, 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所. (招待講演)

⑥ 吉川雅之、兩本早於馬禮遜的粵語資料, The 13th International Conference on Cantonese & Yue Dialects, 2008 年 12 月 19 日, 香港城市大學.

〔図書〕（計 0 件）

〔産業財産権〕

○出願状況（計 0 件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況（計 0 件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕

ホームページでの紹介

<http://www.ac.cyberhome.ne.jp/~hongkong-macao/grant-in-aid1.html>